

優秀賞 高学年の部

おかえり

「ただいまあ」と家に帰ると「おかえり」とおじいちゃんとおばあちゃんの声がかかります。私はその声を聞いてランドセルを下ろして手をあらいにいき、お茶飲んだり、おやつを食べたりします。おばあちゃんに学校であった事を話しをして自分の部屋へ行きます。

ある日、学校から帰るとげんかんのカギが閉まっていたました。

「あれ？ おかしいな」

私のむねがドキドキしてきました。私は、おじいちゃんの車を見に行きました。車はありませんでした。

「買い物へ行つたのかな」

とつばやきながら、ランドセルのおくに入れてある、あいカギを初めて出しました。あいカギでげんかんを開けて、

「ただいまあ」とリビングに入つて行きました。いつもの「おかえり」と言う声はありません。私は少しさみしくなってきました。

私は、次におじいちゃんの部屋へ行き、「ただいま」

と言いました。やっぱり誰もいません。

私は、いるはずがないと思いつながらおふる場やトイレのドア

香川県

観音寺市立観音寺東小学校 四年

細川 夕佳里

も開けてみました。

やっぱりおじいちゃんとおばあちゃんはいません。私は、なんとなくおちつかないまま、いつもおじいちゃんがすわっているソファにすわりました。

時計を見るとまだ5分しかたつていません。いつもこの時間は、おばあちゃんが学校の事をいろいろ聞いてきて、私は、おやつを食べながら、ちよつとめんどくさそうに返事をして、食べ終わると自分の部屋に入っていきます。今日は、誰もいないからすぐに自分の部屋に行けばいいのに、私はリビングでおじいちゃん達の帰りを待ちました。おばあちゃんの声聞きたくないなあ。おじいちゃんまだかな・・・私は少しなみだが出そうになりました。

おじいちゃんとおばあちゃんが私を待ってくれている事が本当はすこくうれしくて安心してたんだなあって事がわかりました。

「ああ・・・いかん泣きそうや」テレビをつけようと立ち上がると、おじいちゃんの車の音がしました。私はあわててげんかんまで走っていき、今まで一番大きな声で言いました。

「おじいちゃん、おばあちゃんおかえり」